



◆ 1・2年生 課外活動 ◆

平成29年6月22日(木)



1・2年生は、週に1時間、課外活動を行っています。音楽、図書、英語、図工、科学、パソコンなどのさまざまな体験学習を、子ども達の成長や季節に応じて実施しています。

今週は、音楽ではいろいろな音を聞いたり、紙コップマラカスでいろんなリズムで音を出したりしました。工作では、フーフーボールや飛行リング、兜を作りました。

図書では、図書室の本がどのように並んでいるのか、図書室の使い方などを調べながら学習しました。図工では、型紙に色をぬり、家を組み立てました。科学では、飛ぶ種のモデルを折り紙を使って作りました。このあと1学期は、七夕の行事にあわせて短冊や飾りをつくりまします。子ども達は、これからもたくさんの経験をつんでいきます。

◆ さまざまな植物が成長しています ◆

平成29年6月中旬



ぎんがの郷小学校では、生活科や理科でさまざまな植物を栽培しています。1年生はアサガオ、2年生はトマト、3年生はホウセンカ、4年生はヘチマとキュウリ、5年生はインゲンマメやイネ、6年生はジャガイモなどです。

毎朝夕、一生懸命水遣りを頑張っている子ども達。気温の上昇とさんさんと輝く太陽の光を浴びて、すくすくと育っている植物達。子ども達もその成長に驚きつつ、その成長を楽しみに今日もお世話に励んでいます。4年生は理科でヘチマとキュウリの背丈を紙テープで棒グラフをつくって記録しています。天井につくまでに育ったヘチマとキュウリ……。生命の力強さを感じています。

学習のしかたに目を向ける

理科・情報専科 近藤 恭弘

新しい学習指導要領が三月に公示されました。移行期間を経て、平成三十二年度から全面実施となります。本校でも、プロジェクトチームを編成し、事前に取り組んでおります。その中から、学習のしかたに着目してみたいと思います。東京大学に認知心理学の知見を利用して学習について研究されている市川伸一先生という方がいます。この先生は「教えて考えさせる授業」というものを提案されていることでも有名です。先生の著書に中高生向けに書いた「勉強法が変わる本」というものがあります。その冒頭に、こんなお話が紹介されています。

小学五年生の子どもが二十平方メートルは何平方センチメートルかを考えるのですが、二十平方センチメートルや百平方センチメートルという間違いをします。そこで先生は、まず、平方メートルと平方センチメートルの定義を確認します。しかし、問題は解けません。さらに、図を描いて考えるよう促します。すると、この子は問題を解くことができました。しかし、ここで終わらせません。先生は、さらに自分の解き方についてどう思ったかを振り返らせます。そこで、子どもは「定義をきちんと確認すること」「紙に図を描いて考えること」を学びます。最初の算数の問題は、算数の場面でのみ使える知識・考え方です。しかし、最後に先生が確認されたのは、今後、生きていく上でずっと使うことができる「学習のしかた」なのです。先生は、「自身の学生時代のエピソードも紹介されています。小学校のころは、たいして勉強しなくても成績が良かった友人が、中学生になって成績が落ちてきて高校受験でも大学受験でも志望校に入ることができなかったと……。この友人は非常に頭が良かったと思うが、この友人は頭だけで考えることをしていたそうです。つまり、マメに手を動かしながら考えるということができなかった(しなかった)ために限界がやってきたのです。このように、学習というのは、「知能」だけでもないし、「努力」だけでもなく、学習や思考のスキル的なものが大きいことをあらためて感じると書かれています。

今後の小学校の学習では、必要な知識を定着させ(先の定義の部分)自力で問題を解決して行く力(先のスキルの部分)を意欲的に行わせていくことをさらに大切にしていきたいと思えます。

参考図書 岩波ジュニア新書 勉強法が変わる本

ぎんがの郷タイムス第4号は9月上旬にお届けする予定です。